

実効性確保のための課題

○第2回検討会において、策定した「消防防災ヘリコプター操縦士の乗務要件・訓練審査プログラム」を実効的なものにするために操縦士の飛行時間の確保に関する課題が挙げられた。

○操縦士の飛行時間の確保が難しい要因

- ・二人操縦士体制構築による操縦士の増加(一人当たりの飛行時間の減少)
- ・飛行時間毎に定められる整備(例:AW139の300時間点検)の存在による**年間の飛行時間制限**(整備コスト、整備期間中の運休を考慮)
- ・災害対応のための飛行時間確保が必要(**待機機体確保が困難**)

○上記要因の解決策としては以下が考えられる。

- ・年間予定飛行時間の見直し
- ・運航団体保有機体の有効活用(運航委託会社での操縦訓練の実施)
- ・飛行時間毎に定められる整備計画の見直し  
 例:複数機体持っている運航団体の場合、1機体のみは300時間点検を年2回行い、年600時間運用とする  
 1機のみで運用している運航団体の場合、2年に1回、300時間点検を年2回行う
- ・近隣運航団体との整備期間の調整と整備期間中の相互出動協力
- ・近隣運航団体との共同運航による訓練機体・訓練時間の相互補完

○これらの点については、引き続き検討が求められる。

飛行時間の確保困難の要因	解決策案
二人操縦士体制構築による操縦士の増加	運航団体保有機体の有効活用
年間の飛行時間制限	年間予定飛行時間の見直し 飛行時間毎に定められる整備計画の見直し
待機機体確保が困難	近隣運航団体との共同運航 近隣運航団体との整備期間の調整